

原典訳 マハーバーラタ 5

上村勝彦訳 かみむら かつひこ
 ▼文庫判・並製カバー・609頁・定価 1,110円

2026年3月刊行



古代インドに産声を上げ、いまなお人々の心に生き続ける世界最長の叙事詩。信頼すべきサンスクリット原典訳の待望の復刊。【全8巻】

【5巻あらすじ】五王子に課された十三年の亡命期間が満了。クル王国の半分を返還するか、戦争によつて國の継承を決めるか——使者が行き交い、和平交渉が繰り広げられる。クンティー夫人はカルナに五王子の長兄であることを打ち明け和睦を勧めるが、カルナはそれを拒否する。ドウルヨーガは断固として開戦を訴え、両軍とも戦闘準備を整える。クル軍の総司令官ビーシュマは、アンバー姫の生まれ変わりであるシカンディンを殺さないことを宣言する。

【目次】

家系図

主要登場人物

マハーバーラタ関連地図

第5巻 努力の巻(ウディヨーガ・パルヴァン)

努力(第一章—第二十一章)

サンジヤヤの使節(第二十二章—第三十二章)

ドリターラーシトラの不眠(第三十三章 第四十一章)

サンツジャータ(第四十二章 第四十五章)

進軍か和平か(第四十六章 第六十七章)(第六十八、六十九章略)

(54)(53)(52)(51)(50)(49)

(58)(57)(56)(55)

(60)(59)

(61)(60)

(62)(61)

(63)(62)

(64)(63)

(65)(64)

(66)(65)

(67)(66)

(68)(67)

サーヴィトリー物語

カルナとの密談(第百三十八章—第百四十八章)

進軍(第百四十九章—第百五十二章)

ビーシュマの任命(第百五十三章 第百五十六章)

ウルーカの使節(第百五十七章 第百六十章)

戦士と超戦士の列挙(第百六十一章—第百六十九章)

アンバーの物語(第百七十章 第百九十七章)

【訳者略歴】

上村勝彦(かみむら かつひこ)

一九四四年、東京浅草に生まれる。一九六七年、東京大学文学部卒業。一九七〇年、同大学院人文学研究科(印度哲学修士課程修了)サンスクリット詩学専攻。元東京大学東洋文化研究所教授。主な著訳書に『屍鬼二十五話』(平凡社東洋文庫)、『カウティリヤ実利論』(岩波文庫)、『インド神話』(ちくま学芸文庫)、『始まりはインドから』(筑摩書房)、『インド古典演劇論』における美的経験』(東京大学出版会)、『バガヴァッド・ギーター』(岩波文庫)、『インド古典詩論研究』(東京大学出版会)、『真理の言葉・法句經』(中央公論新社)などがある。二〇〇三年、逝去。

注文書

(書店印)

ご担当

様

冊

法藏館 定価 1,110円

住所

原典訳 マハーバーラタ 5

上村勝彦訳

【法藏館文庫】

ISBN : 978-4-8318-2717-3 C0198

お名前
お電話